

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）

分担研究報告書

「介護職員に対するがん患者の看取りに関する教育プログラムの開発」
に関する研究

研究分担者 川越 正平 医療法人財団千葉健愛会あおぞら診療所

研究協力者 友松 郁子 医療法人財団千葉健愛会あおぞら診療所
佐々木友明 医療法人財団千葉健愛会あおぞら診療所
柳原美奈子 医療法人財団千葉健愛会あおぞら診療所
山口 朱見 医療法人財団千葉健愛会あおぞら診療所
山崎 浩二 医療法人財団千葉健愛会あおぞら診療所

研究要旨

本研究では、居宅におけるがん患者の看取りを見据え、終末期のケアに関する知識と理解を促す教育プログラムを開発することとした。それに際して、受講者の要望を反映させる形で、より普及性の高い教育プログラムの開発を目指すこととした。

その実現のために、これまで当院が実施してきた研修会におけるグループワークや全体共有を通じて寄せられた意見、研修会時に実施したアンケート結果を精査した。そこから、施設での看取り体制を充実させるには、施設の方針や管理者の考えが重要であるということが浮き彫りとなった。この点を具現化した研修プログラムを開発するためには、受講者の要望や意見をさらに集約することが必要と考え、松戸市の居住系施設の方々を対象にインタビュー並びにアンケート調査を実施した。

そうして寄せられた要望や意見をまとめ、二つの課題達成を目指すこととした。「入居から看取りまでを支える基礎知識を習得する」、

「看取りを支えるチームづくりについて、施設という枠を超えて受講者が相互に学び合う」。研修会を二部構成とし、各テーマについて「講義、グループワーク/ワールドカフェ、全体共有」という流れで研修プログラムを構成した。

研修会終了後に研修会に関するアンケートを実施し、回答内容を分析した結果、本研修会は各受講者に主として以下二つの機会を提供できたとの結論を得た。他施設の職員と議論や情報交換をすることで、「自施設の体制や、自身の介護について見直す機会となった」、「医療と介護の連携について考える機会となった」。

尚、本研究は、平成 27 年度からの「在宅医療・介護連携推進事業」の一環として展開する在宅医療・介護連携支援センター（仮称）の業務のうち、必須となる「在宅医療・介護関係者の研修」のモデルプロ

グラムへと発展していくことが期待される。特に「在宅医療・介護関係者の研修」においては、看取りも見据えた研修プログラムを実施することで、人生の最終段階においても個人の希望にそったケアを提供できる人材育成と地域づくりを支える一助となることが期待される。

A . 研究目的

1981年以降、日本人の死亡原因の第1位を占めているがんは、人口の高齢化に伴い、その罹患者数は今後も増加することが想定されている。¹看取りの場所として、がん患者の約8割が自宅を希望しているにも関わらず、その希望がかなえられているのは2割に満たない。²この状況に対応するために厚生労働省は、医療機関の病床数を増やすのではなく、在宅や介護施設等での看取りを増やすことで対応していく方針を打ち出している。よって、今後の高齢多死社会においては、在宅や介護施設といった生活の場において看取られる人の数がさらに増加していくことが想定される。³

しかし、看取り実績のない施設や、看取りを実施しない方針をとっている施設も依然として多い。その背景要因として、終末期の入所者に対して必要な医療を提供する体制が整えられていないことや、現行の職員配置では看取りに必要なケアを十分に行うことが難しいことが挙げられる。⁴

こうした状況下において、医療依存度や介護依存度の高いがん患者が地域に暮らしながらケアから看取りまでを受けられる体制を充実させることは喫緊の課題である。

当院ではこれまで、介護職員等を対象に、がん患者の看取りを見据え、終末期のケアに関する知識と理解を促す教育プログラムを計6回

施行(松戸市において2回実施、他市での研修開催支援を4回)^{*1}してきた。

本年は、その教育プログラムの施行をとおして得られた知見を反映させる形で、より普及性の高い教育プログラムを開発することを目的とした。具体的には、以下の二つの課題達成を目指した。

入居から看取りまでを支える基礎知識を習得する
看取りを支えるチームづくりについて、施設という枠を超えて、受講者が相互に学び合う

*1 . 研修マニュアルを作成(スライドやアンケート等必要な資料一式を含む)し、同じ内容の研修会を他地域でも開催できるようにした。

B . 研究方法

・研修会の詳細決定プロセス

当院が実施してきた研修会のうち、介護職員を対象として実施した下記研修会を総括し、本年度の研修プログラムを決めることとした。

- 平成24年度「医療と介護の連携を深めるための基礎知識をテーマとした一日講習会」
 - 対象：ケアマネジャー、介護職
 - 受講者数：92名
- 平成25年度：看取りに関する知識と理解を促すための2回連続型の研修会
 - 対象：居住系施設の介護職
 - 受講者数：41名

上記研修会におけるグループワークや全体

¹ 厚生労働省「がん対策推進基本計画」平成24年6月

² 辻 彼南雄「理想の看取りと死に関する国際比較研究」平成24年6月

³ 平成25年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業「長期療養高齢者の看取りの実態に関する横断調査事業」

⁴ 平成25年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業「長期療養高齢者の看取りの実態に関する横断調査事業」

共有を通じて寄せられた意見や、研修会時に実施したアンケート結果から、施設での看取り体制を充実させるには、施設の方針や管理者の考えが重要であるということが浮き彫りとなった。

この点をより具体的なかたちで研修プログラムに反映させるために、以下の流れに従い、居住系施設の方々にインタビュー並びにアンケート調査を実施した。

平成 25 年 12 月

(平成 25 年 看取りに関する知識と理解を促すための研修会 第 2 回開催時)
研修会プログラムの詳細についてインタビュー協力いただける方を募集

平成 26 年 2 月

松戸市内にある居住系施設管理者 8 名にインタビュー

平成 26 年 5 月

研修会の内容に関するアンケートを実施するための質問紙票を作成

平成 26 年 6 月

インタビュー協力者 8 名の協力を得て、パイロット調査を実施

平成 26 年 6 月

質問紙の修正

平成 26 年 7 月

松戸市内の居住系施設 (133 箇所) の管理者を対象に、質問紙票を郵送しアンケート調査を実施 (アンケート回収率 31.4%)

・ 研修会の内容

テーマを「居住系施設管理者や職員を対象とした終末期ケア研修会～入居から看取りまでを支えるケア～」とし、下記のとおり 2 部構成とした。

第 1 部

- ・ 講義：入居から看取りまでを支える基礎知識
 - 老い、衰えのプロセス
 - 看取りのプロセスとケア
- ・ グループワーク：現状把握と課題抽出

- ・ 全体共有

第 2 部

- ・ 講義：看取りを支えるチーム作り
 - 高齢多死社会における居住系施設の役割
 - 施設や各職種に向けた論点提示
- ・ ワールドカフェ
 - 他の施設ではどんな悩みをもっているのだろうか？
 - 他の施設ではどのような工夫をしているのだろうか？
- ・ 全体共有

本プログラムの特徴

受講者が、施設の枠や役職 (立場) の違いを超えて、限られた時間の中で、できるだけ多くの受講者と議論や情報交換できるようにするために、以下の工夫を行った。

- ・ ワールドカフェ形式を採用した。
- ・ 各講義の最後に、講師がグループで話し合う際の論点を複数提示することで、グループで話し合う際の焦点を絞りやすくした。

第1部 グループワークでの論点

- ・ 自施設の看取り介護への取り組み状況共有
- ・ 医療介護連携体制は現状どうなっているか
- ・ 看取りに取り組むにあたり存在する“壁”とは
- ・ 居住系施設が“終の棲家”を目指す意義とは

第2部 ワールドカフェでの論点

- ・ 前半のグループワークで討論した内容の共有
- ・ スタッフの不安や負担感等にどう対処するか
- ・ 他施設の“悩み”や“工夫”から学ぶ
- ・ 密室化を避け地域に溶け込む施設のあり方

対象者（表1・表2・表3・表4・表5）

松戸市内の居住系施設 133 箇所に案内を送付し受講者を募った。

尚、研修会受講の効果をより高めるために、案内に際しては施設の管理者・管理的立場にある方と、現場で経験や研鑽を積みつつある介護職や看護職の方が複数名で申込みことを推奨した。

受講者の所属施設（表1）、職種（表2）、経験年数（表3）、仕事上での看取り経験の有無（表4）、看取り件数（表5）は下記に示すとおりである。

表1．受講者の所属施設

	n	%
特別養護老人ホーム	8	18.6
グループホーム	26	60.5
小規模多機能型居宅介護施設	2	4.7
有料老人ホーム	1	2.3
サービス付き高齢者向け住宅	1	2.3
宅老所	2	4.7
介護老人保健施設	1	2.3
無回答	2	4.7
合計	43	100.0

表2．受講者の職種（複数回答）

	n	%
看護師	4	9.3
ケアマネジャー	15	34.9
ヘルパー	11	25.6
介護福祉士	24	55.8
社会福祉士	3	7.0
その他	2	4.7
無回答	2	4.7
合計	43	100.0

表3．経験年数

	n	%
1年未満	3	7.0
1年～5年未満	12	27.9
5年～10年未満	18	41.9
10年～15年未満	7	16.3
15年～20年未満	1	2.3
20年以上	0	0.0
無回答	2	4.6
合計	43	100.0

表4．仕事上での看取り経験の有無

	n	%
ある	31	72.1
ない	11	25.6
無回答	1	2.3
合計	43	100.0

表5．看取り件数

件数	n	%
1	5	11.6
2	2	4.7
3	1	2.3
4	2	4.7
5	1	2.3
6	5	11.6
7	4	9.3
8	1	2.3
10	1	2.3
12	1	2.3
20	2	4.7
30	5	11.6
無回答	13	30.2
合計	43	100.0

・ 研修会の様子

以下、当日のプログラムの内容順に、研修会の様子を写真で報告する。

第1部

講義

【入居から看取りまでを支える基礎知識】



【職員のグループ】



グループワーク

【管理者のグループ】



全体共有



* 休憩時間に席移動し、管理者と他施設の職員が一緒となるメンバー構成とした